

平成30年度秋田県総合政策審議会
第2回 人・もの交流拡大部会
(議事要旨)

1 日時 平成30年7月26日(木) 15:00~17:00

2 場所 総庁601会議室

3 出席者(敬称略)

【人・もの交流拡大部会委員】

佐野 元彦・・・秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役会長

関口 久美子・・・株式会社トースト 常務取締役

日野 智・・・秋田大学大学院理工学研究科 准教授

渡邊 竜一・・・株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役

【県】

観光文化スポーツ部 次長 嘉藤 正和

次長 恵比原 史

インバウンド推進統括監 益子 和秀

参事 飯坂 尚登

各課課長 ほか

4 部会長あいさつ

高校野球の地区予選が全国で行われており、都道府県によっては甲子園出場校が決まり、いよいよ夏本番と感じる時期になった。

私は、昨日まで岡山に仕事で行っていたが、豪雨の爪痕が残っており、今後、観光への影響が危惧される状態である。今回は、最近の状況を踏まえて、防災やリスク管理にも触れていきたいと考えている。

7 議事

(1) 第1回部会における提案に対する県の取り組み状況と「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の推進に係る施策の提言について

□石黒観光戦略課長

施策1 1~2 資料により説明

□成田観光振興課長

施策1 3~9 資料により説明

□大友秋田うまいもの販売課長

施策2 10～12 資料により説明

●渡邊委員

前回の審議会で提案した意見に対する県からの回答を、事務局が要約しているので、発言とニュアンスが違う箇所があれば指摘いただいた上、新たな提案等があれば更に議論していきたい。

8月16日に各部会の部会長が出席する企画部会がある。他の部会で出た意見を持ち寄り議論することになる。人もの交流は、様々な分野に関係してくる内容であるので、幅広い内容で意見を頂戴したい。

●佐野委員

情報発信について、Instagram フォトコンテストや8ページのインバウンド向けのコンテンツをセールスシートにまとめているということだが、まずは県民が知っておく必要がある。県外の人が秋田に来た際に、県民がスポットを紹介したり、一緒に連れて行くことが感激につながるの、県内在住者に知ってもらい、98万人の秋田県民がおもてなしできるようにすることが必要ではないか。

6ページの2番の秋田犬について、実は秋田県は動物の殺処分が多いと聞いたことがある。秋田犬は、子犬の時は可愛いらしいが、成長につれてかなり大きくなり、吠えることも多いし、飼い主が高齢になると散歩をさせることも一苦勞で、殺処分されるケースがあると聞いている。私は、安易に秋田犬を飼うことを勧めることに若干不安がある。秋田犬を育てるための注意点を知らせた上で、世話ができなくなった時の対策を用意しておく仕組みづくりが大切である。「一般社団法人 ONE FOR AKITA」という民間での動きがあり、民間でお金を出して、このことについて周知していくことに取り組んでいる。

次に、7ページの留学生の活用については、前回の部会では留学生をガイドとして活躍することを提案したが、秋田県の観光地を彼らの目線で見てもらい、「ここは外国人に分かりにくい」、「外国人には難しい」といった情報を提供してもらうのはどうか。

次に、9ページのDMOについてであるが、自分たちでお金を稼がなければいけない組織ならではの特色を生かしてほしい。東北観光推進機構や観光連盟等の拠出金等で成り立つ組織は、基盤整備等の守りの観光振興が主たる役割であり、観光客数をいかに増やすかという攻めの観光振興は、自分たちでお金を稼いで利益を上げないと組織が成り立たないDMOが中心になって進めるべきだと思う。

次に、政策2の「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進について、先日、商工会議所の会議で県総食研の所長の話聞いた。作ったものをいかにして売込みや販売するかが大きな課題であるという話であった。私のグループ会社の話だが、潤彩小町(じゅんさいこまち)という便通改善や美容に良い商品を開発したが売れない。販売ルートがない。最近、ようやく販売ルートが見えてきた。販売ルートが確立できないと商品を開発しても一定期間赤字が続くことになる。

□成田観光振興課長

エリアなかいちの秋田犬ステーションは県の事業だが、「一般社団法人 ONE FOR AKITA」が運営している。県の事業やポスター等に映っているのは、秋田犬保存会が保有している犬を活用している。青森の方で有名な犬は、保存会は秋田犬として認めていない。頭数を増やすのではなく、秋田犬の歴史を理解している人が飼っている犬に協力していただいている。

□石黒観光戦略課長

いわゆるインスタ映えするスポットなどは、まず県民が知る必要があるというのは、まさにそのとおりである。Facebook や Instagram の利用者は若い人が中心であり、「県民全員に」というのは難しいようにも思える。インスタ映えするスポットの例でいうと、八幡平にあるドラゴンアイでは、日本テレビのZIPという番組に協力していただき、知名度が上がったことで県内の人を訪れるようになった。

留学生の活用の中で話があったが、私も数年前から関わっており、外国人と県内各地を回ったことがある。特に女子学生は和式トイレしかないと非常に困るようである。そのような意見を施設と共有し、取組を進めていきたい。

□金生活衛生課長

動物の殺処分について、平成27年度は犬が113件、猫が719件の合わせて832件あった。平成28年度は、犬が79件、猫が499件の合わせて578件であった。平成30年度は犬が42件、猫が301件の合わせて343件と減少している。平成27年度は、多頭飼育施設での処分があったため、数字が大きくなり誤解を受けたのではないか。今後も、救える命は救っていききたいし、観光振興にも協力していききたいと考える。

□大友秋田うまいもの販売課長

平成24年から秋田市で商談会を開催している。今年は、秋田テルサで開催し113の事業者が出展した。参加した業者からは、新たな顧客が見つかったなどの声が聞こえてきた。

●佐野委員

販売ルートについては、実は大企業の社内販売が効果的である。会社の福利厚生になり、ある程度のロットが確保できる。例えば、秋田県内に支店を置いている企業に対してお願いするのは良い手段ではないか。

□嘉藤次長

DMOについては厳しい御意見であったが、佐野委員がおっしゃるとおりと感じた。県内では、秋田犬ツーリズムDMOが、古民家の利用などにより稼ぐ事業を行っており、今後このような取組が増えてくると感じている。

●関口委員

2番のペットと一緒に過ごすための施設整備についてだが、現在は、15歳未満の人口が、犬猫を飼っている人口を下回っている。犬猫は家族同然であり、受入態勢が充実しているかが大切ではないか。各施設がどういった現状で、どういったことが障壁となっているのか、利用者が何を不便と感じているか調査するべきである。現状は、ペットと一緒にだと、ホテルには泊まれないため、車で移動して車中泊するケースもある。みんなにやさしい秋田県を目指すなら、考えるべき課題である。

□石黒観光戦略課長

ペットツーリズムについては、県内で20弱の施設がペットと一緒に泊まることができることを把握し、県のウェブサイトからPRしている。その一方で、ペットアレルギーや匂いなどを嫌がる客がいることも事実である。一般の客とペット連れの客を分離できるかがポイントになる。経営者がペット好きで可能のところは、マーケットとして考え積極的に受け入れればよい。また一定規模の大きさがある施設で、ペットと泊まれる棟などを分離し、ほかの客と会わないようにする取組をしている施設もある。調査、分析については、宿泊だけでなく、ドックランがあると喜ばれると聞いている。ペット連れは、大きなマーケットになる可能性があることは認識している。

●渡邊委員

ペットと泊まれる施設を増やす取組のほか、専門家のアドバイスを受け入れている県もある。特別なことをするのではなく、古い宿なので壁に傷をつけてもかまわない、設備投資をしなくても客単価が上がってよかった、などの声も聞いている。ぜひ、可視化してみてもどうか。

●日野委員

ウェブ検索のSEO対策について、どれくらい意識しているか。自分もそうだが、気になるスポットやキーワードを検索して、上位に出てきたスポットに行こうと考える。

□益子インバウンド推進統括官

秋田ファンドットコムでは、委託する段階でSEO対策を含めて発注している。また、デジタルマーケティング手法も導入し、検索した人の属性で、広告を表示するようなことにも取り組んでいる。最近のインバウンド旅行客は、自分で調べて行き先を決めるので有効な手段と考えている。

●渡邊委員

SNSやテレビなどを活用しているとのことだが、多媒体のメディアの活用を積極的に行ってほしい。

●佐野委員

テレビとネットの同時配信が始まると、ローカル局が影響を受ける。地元のテレビ局が生き残るためには、地元を取り上げた自主番組をいかにして作るかが大切になる。地元のテレビ、ラジオ、新聞で紹介してもらい、良い関係を作ることが必要になる

□文化振興課長

政策 3 1 3 資料により説明

●渡邊委員

佐野委員の話にもあったが、ローカル局が地元の祭りや伝統行事を積極的に取り上げることが大切である。地方局が撮影した祭りの映像が全国ニュースで流れることで、知名度が上がるとともに、興味を持ち訪れる人が増えるのではないか。また、秋田県につながりがある人が、ふるさとが取り上げられたニュースを見れば、久々に秋田に行ってみようと思う人がいるはずである。内側への周知と外側への周知を、粘り強く続けることが大切である。

□飯坂スポーツ振興課参事

政策 4 1 4～1 6 資料により説明

●佐野委員

1 5 番の特定の種目に特化したスポーツ振興では、秋田で盛んな競技や県民の目が肥えている競技を行いつつ、大会会場の提供だけにならないようにしてほしい。例えば、モーグルワールドカップでは、地元にも有力な選手がいるとかファンが多いなどの要素が、秋田県で大会が継続されることにつながるのではないか。それが 1 4 番のジュニア層の強化にもつながるのではないか。

□飯坂スポーツ振興課参事

全国的に人気の高い野球は別として、本県にはラグビーとバスケットボールに目が肥えた人が多い。この 2 つの競技については、強化拠点校や中学生強化指定選手などにより引き続き強化していきたい。また、県内のプロスポーツの活躍にも期待している。

●佐野委員

県内で、シーズン中に、常時モーグルの練習ができる環境はあるのか。

□飯坂スポーツ振興課参事

常時できる環境はない。現在は、ゲレンデに「こぶ」があるとケガをする可能性が高くなるので、圧雪することが基本となっている。また、モーグルのこぶは、自然にできるものと異なり、少し特殊なものになる。田沢湖高原リフト会社では、4 月からモーグルの選手を職員として採用し、大会誘致やジュニア育成の業務を行う予定である。

●関口委員

新たな提案になるが、スポーツを通じて交流人口を増やしていこうとする中で、ドッグスポーツという競技があることはご存知か。犬と人間が共にするスポーツとして、スポーツをする中でしつけをしたり信頼関係を構築することにつながる。一般法人JKCに練習場を公認してもらい発信してみてもどうか。そして、ドッグスポーツの大会を秋田で開催していく。また、冬になれば秋田の資源を生かして、犬ぞりをやってもいいのではないか。

□飯坂スポーツ振興課参事

ドッグスポーツについては、スポーツ振興課として考えてこなかった。スポーツ施設の構築は難しいが、観光とつなげて交流人口を増やすうえでの参考にしたい。

●渡邊委員

ドッグスポーツはどこで盛んなのか。

□関口委員

埼玉で大会が開かれている。犬と一緒にスポーツを行うことを秋田県からPRしてみてもどうか。

●佐野委員

例えば、ドッグスポーツの大会に廃校を有効利用できないか。グラウンド（校庭）で競技を行い、宿泊は校舎を利用してはどうか。

●関口委員

さらに、犬と一緒に走るマラソンもある。距離別、男女別、犬別などのカテゴリーがある。このような取組は秋田ならではの、ぜひ県から発信していただければと考える。

●日野委員

具体的な効果はどうなのか。子どものうちはスポーツ少年団などで体を動かしていても、大人になると仕事の都合でやめてしまう人が多いと思うが、どうすれば続けてもらえると考えているか。

□飯坂スポーツ振興課参事

成人の運動継続は、永遠の課題である。毎年、約3千人を対象として秋田県スポーツ実態調査を行っている。調査の結果、週に1回以上運動している人が47%である。注目する点として、20代、30代の子育て世代の女性と40代、50代の男性のスポーツ実施率が極端に低い傾向にある。理由として、「仕事や子育てが忙しい」、「運動する時間がない」との回答が多い。一歩踏み出すのをためらっていると感じている。ちなみ

に、秋田市内にある民間スポーツクラブは、夕方に行けば結構多くの人が利用している。運動する場があれば、身体を動かしたい人は多くいるのではないかと。

●佐野委員

40代、50代のスポーツ実施率を高めるためには、秋田県の企業が健康経営を進めることが必要ではないか。健康経営優良法人のチェックリストに運動機会の増進に向けた取組がある。商工会議所や協会けんぽが取り組んでいるので、そういった法人を増やしていくのはどうか。20代女性には、ウォーキングすることでポイントが貯まるという取組を行えば、やる気につながるのではないかと。現在、秋田商工会議所では、ウォーキングすることでポイントがたまり、そのポイントを商店街で使える取組の導入に向けて検討を進めている。

●渡邊委員

私も、スマートフォンにアプリを入れている。ポイントを貯めることで、協賛企業の商品に変えることができるというもので、やる気につながる。

一方で、全国各地で異常気象が続く中、災害対策についても検討していただきたい。高齢者の熱中症の問題がニュースで取り上げられているので、対策の啓発をしていただきたい。

□佐藤道路課長

施策5 17～18 資料により説明

□成田観光振興課長

施策6 19 資料により説明

●日野委員

道路を作った後の成果や影響をもっと前面に出したほうがいいのではないかと。ただ道路を作るのではなく、道路整備の成果などについて、情報の出し方を工夫したらどうか。事後評価をしているか。

□佐藤道路課長

事後評価は、開通した翌年度に実施している。

●日野委員

事後評価を公表していると思うが、もっと積極的に出すことで、ほかの分野にも波及し、効果を発揮していることが広く伝わるのではないかと。

また、前回の部会で話があったが、高齢者の交通事故の対策として、高齢者の運転免許返納の問題があげられる。施策6につながってくるが、公共交通機関が充実しないと高齢者は運転免許を手放すことができない。

□高橋交通政策課長

公共交通機関の整備と高齢者の運転免許返納対策については、県警本部と連携して検討している。バス路線については、国の制度を活用し事業者に補助を行っており、国の支援を得られない場合は県で補助を行っている場合もある。最近では、市町村がコミュニティバスを運行しているが、運行経費が大きな負担となっている。新規事業として、自治体やNPOに対してコミュニティバスを立ち上げる取組への支援を行っている。

●渡邊委員

父が認知症になり、免許の返納を説得するのに苦労した。彼らは、自分の運転に自信を持っている。特に地方では、車を運転しないと生活に影響が出るためより難しい問題と感じる。地域住民が連携して取り組んでいく必要があるのではないかと。

●日野委員

私は、交通に関わる各種会議に出席しているが、普段情報を出さない警察が、免許返納については積極的に提起する印象がある。警察を含めて何かできないかと。

●関口委員

観光道路について、昨今の雨で道路が崩れ、通行止めになった際には湖畔に人が来なくなつた。ここ数年は毎年のように雨が降っているので、来年も降ることが想像できる。湖畔道は、生活道路であり、産業道としてトラックも走っている。自転車も含めて安全を担保できていない。そこで、県道38号線から国道105号に抜ける道が必要ではないかと。現在の湖畔道は、遊歩道として歩行者や自転車の専用道路にできないか。そうすればマラソン大会やサイクリング大会ができるのでスポーツイベントを誘致できるのではないかと。

次に、秋田空港から田沢湖までのアクセスだが、1時間半かかる。お客様からも遠いという意見をいただく。実現できるかは別として、空港からの田沢湖への自動車専用道路があれば観光客に喜ばれる。願わくば、国道13号から仙岩トンネルまでバイパスができるだけでも全然違う。お客様からは、「角館バイパスができたことで近く感じる」という声が聞こえてくる。

次に、側溝の蓋について提案する。蓋がされてない箇所があり、雪が降ると道路と側溝の境界がわからずに脱輪してしまう事故が起きている。果たして安全な道路といえるのだろうか。高齢者ドライバーの問題もあるので、対策をしなければいけないのではないかと。

●渡邊委員

冒頭に出張で岡山に行った話をしたが、岡山駅でレンタカーを借りて目的地へ向かったところ、5、6か所の崩落箇所があった。注目したのは、岡山県のウェブサイトには詳細が掲載されており、それがカーナビと連動していたことである。普段利用しているルートではない道が表示されたので疑問に思ったが、災害箇所を迂回するルートを案内し

てくれたのだと気がついた。

今回の災害時では、外国人に対するアナウンスや情報提供があまりされていなかった。日本人はスマホで調べることができるが、インバウンド旅行者が増えていく中で今後検討が必要になるのではないか。

観光と交通ネットワークを考えたときに、青森県や岩手県などの近県との連携に取り組んでいただきたい。最近テレビ番組で路線バスを活用した旅番組が流行っており、表示の工夫しだいで活用してもらえるのではないか。二次交通についても復活した例がいくつかあるように、情報を見える化すると改善につながる。

アウトバウンドの促進については、県民が海外に行った際に、秋田の良いところをしっかりと紹介できることが大切である。県民にどんどん海外に出て行ってもらい、コミュニケーションを拡充してもらいたい。

●佐野委員

道の駅について、道路の利用者だけでなく、その地域に住む人のための複合施設として活用できるのではないか。二ツ井の道の駅には、子どもたちが室内で遊べるスペースがある。災害に備えたスペースだが、通常時は開放しているとのことである。住民サービスや公民館の要素があると人が集まることにつながる。まとめられるものはまとめてしまえばいいのではないか。

施策6にあるLCCについてであるが、国際定期航空路線の誘致は難しいが、例えば、秋田空港と成田空港や静岡空港、福岡空港を国内LCCで結ぶ路線を誘致できないか。先日、島根県の出雲空港に行ったが、地方空港としては便数が多い。フジドリームエアラインがJエアと共同運航しており、羽田空港、伊丹空港、福岡空港の主要な空港と、仙台空港、名古屋空港（小牧）、静岡空港などの路線がある。今後、成田空港や富士山を見に行ったインバウンド旅行者を呼び込むうえで、国内線のネットワークがプラスに働くのではないか。

●関口委員

10番の食品製造に係る県境を越えた分業と連携について、新潟が米菓で成果を上げたという提案には根拠がある。米があって、工場があるから米菓が作れるというほど簡単ではない。秋田には総合食品研究センターがあるが、研究開発部門のノウハウをフル活用しないといけない大変なことである。私も食品会社にいたのでよくわかるが、原料の米の産地が変わっただけで製造方法が変わる。

前回、禅について提案したが、1つのコンテンツとして扱うのではなく、禅をするために秋田に行くというくらい、新しいテーマとして考えてほしい。海外の人は禅に興味があるので取り組む価値がある。秋田発の取組になるのではないか。

●日野委員

道の駅の話があったが、公共施設を集めた取組が岡山にある。これからの道の駅は変わっていかざるを得ないと思う。

●渡邊委員

本日の議事は以上とする。
進行を事務局にお返しする。

□事務局

長時間にわたり熱心な御審議に感謝申し上げます。
これをもって第2回人・もの交流拡大部会を閉会とする。

以上